

山形市都市計画マスタープラン地域別構想

村木沢地区



山形市

地域別構想の役割

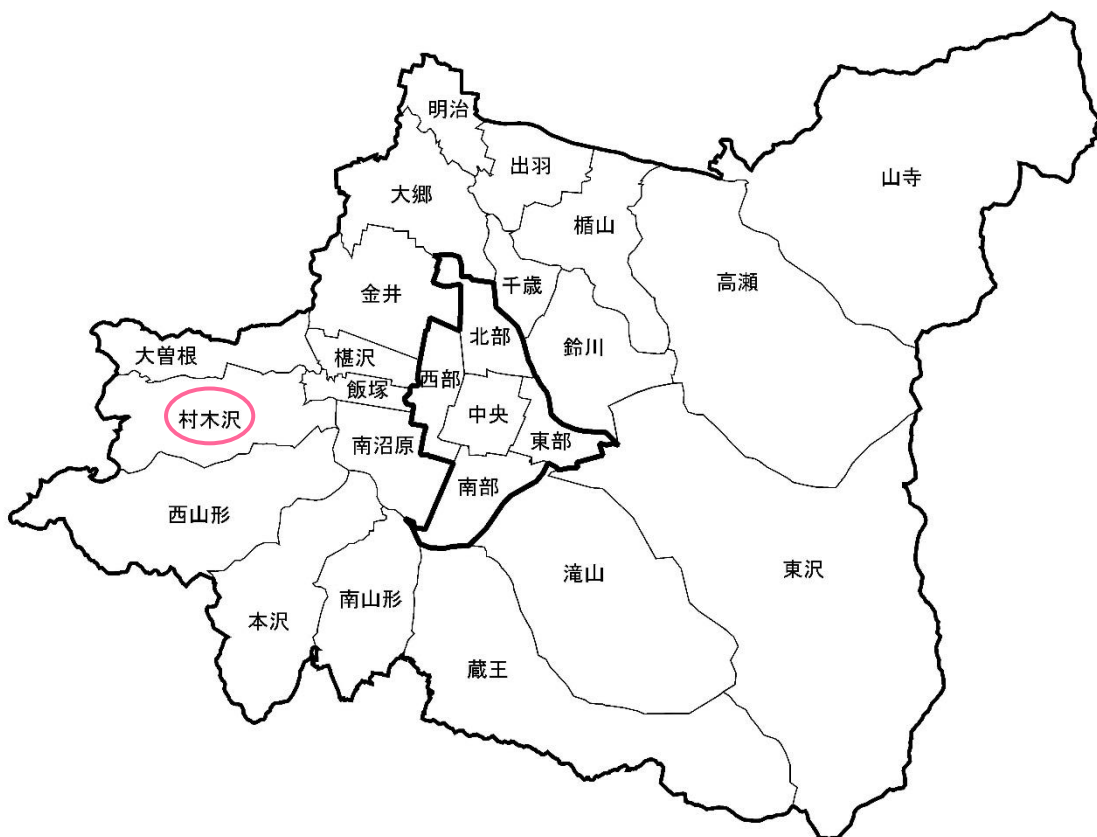
■地域別構想とは

全体構想や分野別構想における各地域の位置づけ等を踏まえ、地域特性や固有の課題に応じた地域ごとのまちづくりの方針を示すものです。

■地域区分の考え方

都心地域については、歴史的な経過や地理的条件、地域特性などから、ある一定のまとまりをもってまちづくりを考える地域として東西南北中央の5つの地域に区分します。

都心地域以外の地域については、旧村単位の地域ごとに地域づくりの拠点として、コミュニティセンターが設置され、それぞれの地域ごとに独自のまちづくり活動を展開していることから、旧村区域により20の地域に区分します。



1 地域の特徴と課題

地域の特徴

◆田畑や森林など豊かな自然に囲まれた、歴史ある地域です◆

- ・地区の51%は森林で、39%が田畑と自然豊かな地域です。
- ・西部の丘陵から山形市中心部や蔵王連峰が一望でき、素晴らしい眺望です。
- ・出塩文殊堂では初夏にあじさい祭りが開かれ、多くの観光客で賑わいます。
- ・市指定天然記念物の「文殊様の夫婦杉」があります。
- ・「長岡楯」「若木楯」といった城館跡をはじめ、多くの史跡があります。



出塩文殊堂参道「あじさい参道」



市天然記念物「文殊様の夫婦杉」

- ・自然環境と調和のとれた住宅団地「あじさいタウン」があります。
- ・「あじさい営農組合」では、「悪戸いも」など農産物のブランド化や、地域住民だけでなく地域外の方を対象とした稲刈り・収穫体験などにより、農業を通じた地域の活性化を図っています。
- ・村木沢小学校は明治6年に創立され、現存する山形市の小学校の中では一番歴史のある小学校です。
- ・中宿地区の生け垣のつづく通りは、山形市まちなみデザイン賞を受賞し、集落を象徴する景観となっているとともに、地区の景観づくりに大きな役割を果たしています。
- ・国道458号沿いの地区の中央に当たる場所の近辺に、村木沢コミュニティセンター、村木沢小学校、第八中学校、あじさい営農組合などが立地し、村木沢地区の中心として生活拠点となっています。



中宿地区の生け垣のつづく通り



上平地区からの眺望

◆南北に主要な交通道路が位置しています◆

- ・主要交通軸である国道458号や市道西部広域環状線が位置し、南北へのアクセスが良好です。
- ・村木沢地区から山形市中心部へ直結する道路である、(都)東原村木沢線の計画があります。
- ・住民の交通手段として、「山形市地域交流バス南部線」が運行されています。
- ・東北中央自動車道の山形PAにスマートインターチェンジ[※]が設置される計画があり、村木沢地区から東根方面、関東方面へのアクセスが容易になります。

◆人口は減少傾向にあり、高齢化が進んでいます◆

- ・人口は、20年間で約18%減少しており、人口の減少傾向が続いています。
- ・人口に占める高齢者の割合は31.8%となっており、20年間でおよそ7%増加しています。山形市全体の27.1%と比較しても、高い割合となっています。

	村木沢地区				
	総人口(人)	～14歳	15～64歳	65歳～	年齢不詳
平成7年	2,263	377	1,327	559	0
平成27年	1,865	244	1,028	593	0
増加数	-398	-133	-299	34	0
山形市全域					
平成27年	253,832	31,869	151,271	68,745	1,947

- ・開発許可制度の規制緩和に伴い、自然豊かな集落などでの暮らしを望む、外部からの移住が可能となりましたが、なかなか進んでいない状況です。

◆生活の利便性の面での住民満足度が低くなっています◆

- ・市民アンケートにおいて、買い物の便利さや通勤・通学のしやすさ、生活利便施設へのアクセスしやすさに対する満足度が低くなっています。
- ・公共交通の利用のしやすさに対する満足度が低くなっています。
- ・地区内の小売店や生活利便施設が非常に少ない状況です。
- ・(都)東原村木沢線が長期にわたり未着手のため、早期着手の要望が出されています。

◆地区内に土砂災害や浸水のおそれのある区域があります◆

- ・須川が氾濫した場合、地区内が浸水するおそれがあります。
- ・地区の一部が土砂災害警戒区域[※]及び土砂災害特別警戒区域[※]に指定されています。
- ・地区内に山形盆地断層帯があり、大規模な地震が発生した場合に被害が想定されます。
- ・ため池決壊による浸水のおそれがある区域があります。

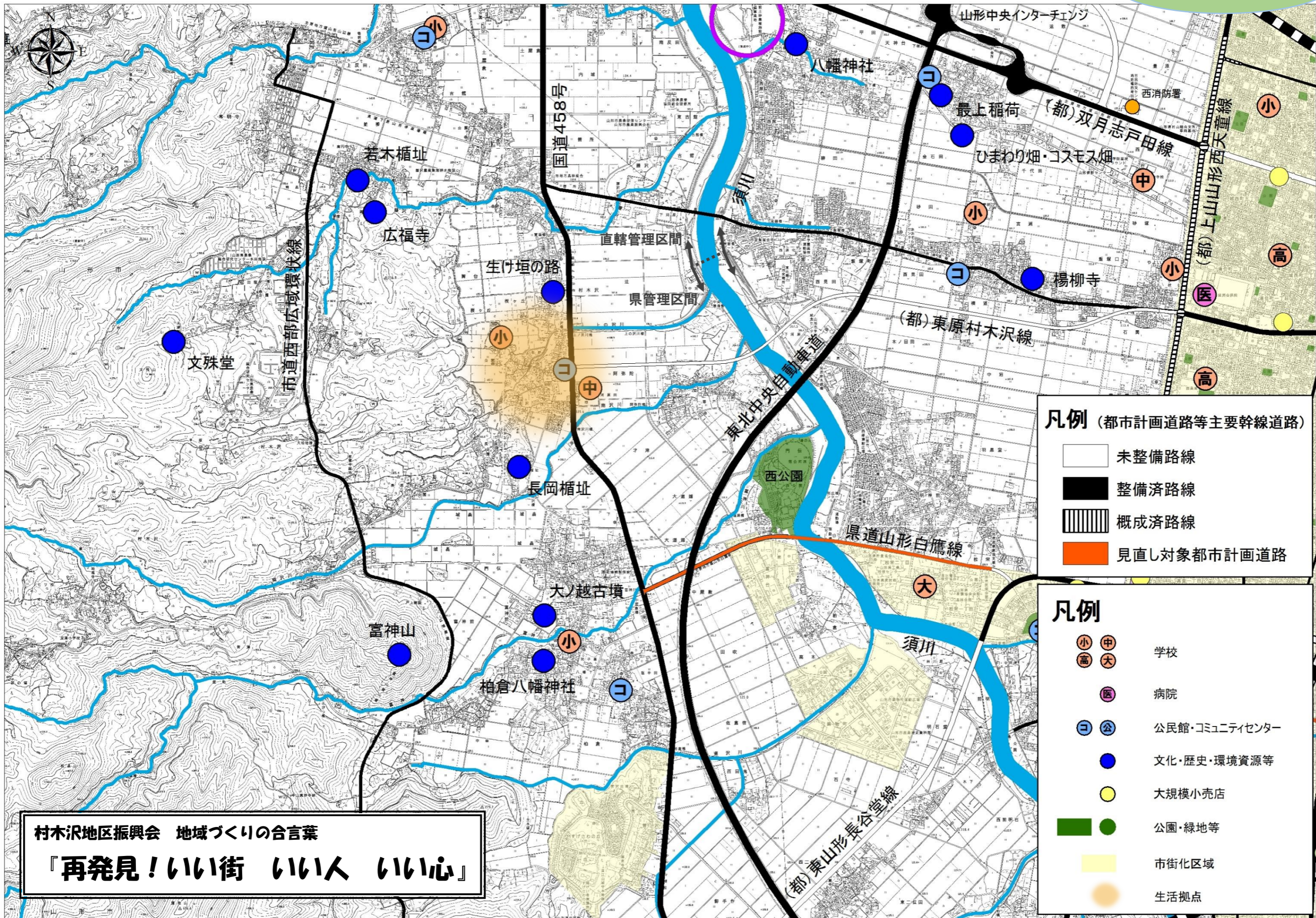


村木沢コミュニティセンター「あじさい交流館」



伝統野菜「悪戸いも」畑の様子

地区概況図



凡例 (都市計画道路等主要幹線道路)

	未整備路線
	整備済路線
	概成済路線
	見直し対象都市計画道路

凡例

		学校
		病院
		公民館・コミュニティセンター
		文化・歴史・環境資源等
		大規模小売店
		公園・緑地等
		市街化区域
		生活拠点

村木沢地区振興会 地域づくりの合言葉
「再発見！いい街 いい人 いい心」

地域の課題

土地利用に関する課題

- ・村木沢地区西部の丘陵などの地区の大半を占める森林について、保水力や地球温暖化の抑制などの公益的機能から、適切な維持・保全が必要です。
- ・地区内の優良農地は農業の生産基盤であるとともに、国土の保全や良好な景観形成など多面的な機能を有する貴重な財産であることから、有効に活用することで維持・保全を図り、次世代へ引き継いでいく必要があります。
- ・定住・移住・回帰を促進するため、良好な居住環境の構築と生活利便性の向上を図る必要があります。
- ・地域の活性化を図るため、あじさい祭りや地域に点在する史跡といった歴史・文化資源などを活用した、地域の魅力発信が必要です。
- ・地域特性である「農業」を活かしたグリーン・ツーリズム※などを促進し、交流人口※や関係人口※の拡大を図るとともに、これを定住人口の増加に繋げる取組みが必要です。

交通に関する課題

- ・（都）東原村木沢線は、「山形市都市計画道路見直し計画」においては継続候補路線となっていますが、都市計画決定から長期間にわたって未着手となっています。
- ・地域交流バス南部線の利便性向上など、市街地への交通アクセスを確保する必要があります。
- ・市街地への交通アクセスを確保するため、地区内の公共交通（路線バス、コミュニティバス）の利便性向上や利用促進を図り、維持する必要があります。
- ・東北中央自動車道山形PAへのスマートインターチェンジの整備を見据え、周辺道路の整備や安全性の向上が求められています。



国道458号



地域交流バス南部線

その他まちづくりに関する課題

- ・村木沢小学校の児童数が減少していることから、小学校のあり方について考えていく必要があります。
- ・地震、大雨等自然災害に備え、防災演習の実施等意識の高揚を図る必要があります。
- ・地区内を山形盆地断層帯が南北に走っており、被害を抑制するための防災・減災対策が必要です。
- ・須川に築堤未完成部分があり、氾濫が発生したときに浸水のおそれがあります。
- ・畑谷大沼、板橋沼、荒沼、苔沼、隔間沼の決壊による浸水のおそれがあります。
- ・「再発見！いい街・いい人・いい心」を合言葉に、地域では活発なまちづくり活動が行われていますが、コミュニティ意識が希薄な層などへも地域イベントへの積極的な参加促進を行うなど、世代間の融合を図りさらに発展させる必要があります。
- ・コミュニティを活かした地域住民主体の積極的なまちづくり活動を促進するとともに、これを行政が積極的に支援する仕組みづくりが必要です。

地域の声（意見交換での意見や地域の要望など）

【土地利用】

- ・移住者・定住者の増加に向けて、農振農用地を転用するなどした住宅団地開発の要望があります。
- ・宅地開発を行う際には、市街化区域外であっても上下水道等のインフラについて行政による整備を要望する声があります。

【交通】

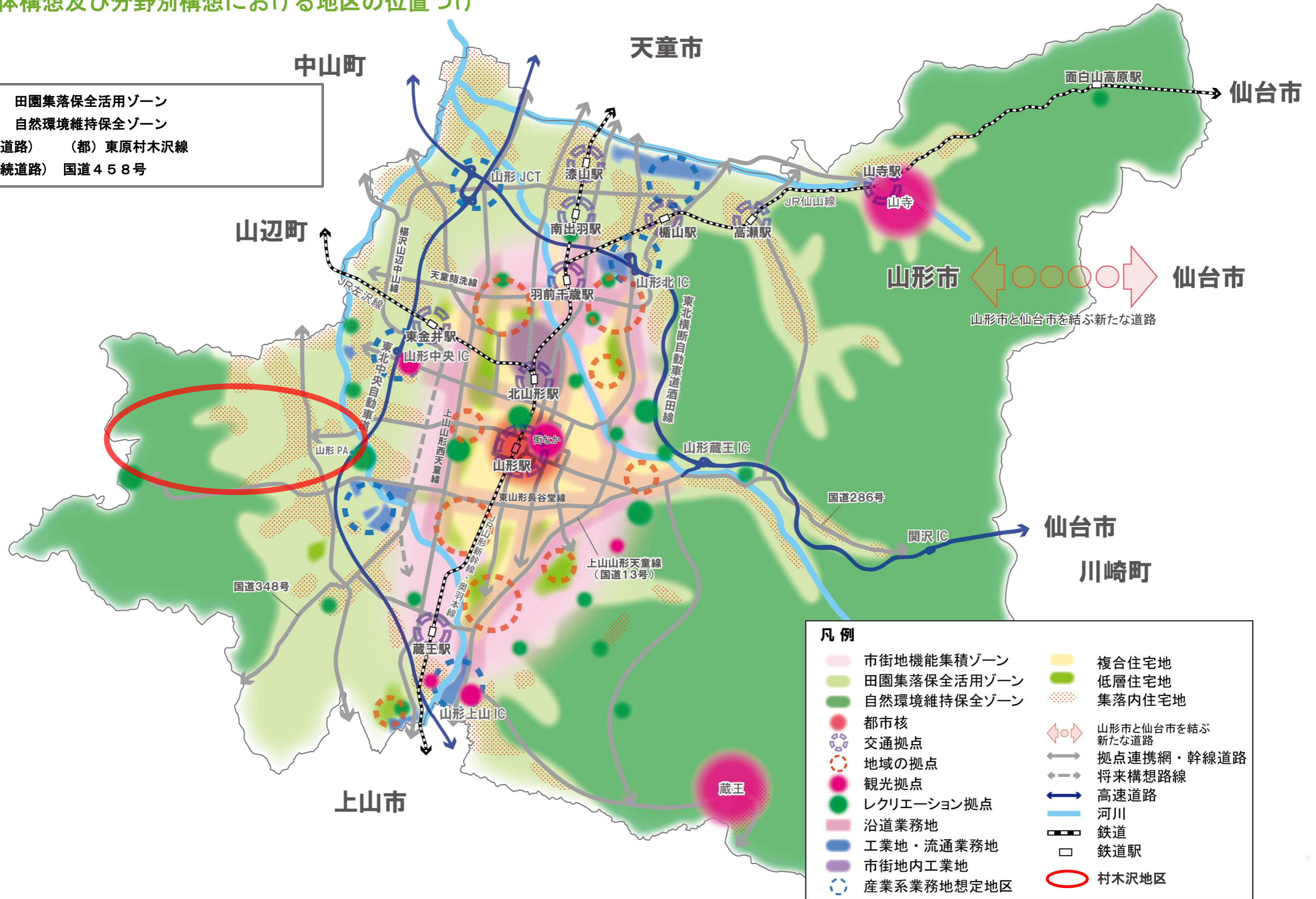
- ・（都）東原村木沢線の事業化の目途が立たない中、市道として整備された中部3号線を有効利用したいという声があります。
- ・替所から門伝までの南北の区間が路線バスの空白地となっているため、路線をつなげて欲しいという声があります。
- ・通勤・通学に利用できる公共交通がなく、自動車を使わないと移動できないという意見があります。

【その他まちづくり】

- ・須川の浸水や地震など、災害が起こった際の危機管理についての住民向け情報提供を充実して欲しいという声があります。
- ・子育て支援施策の一環として、児童遊戯施設などの子どもの遊べる場所が欲しいという声があります。
- ・地区の若者について、そのまま村木沢地区に残るのではなく利便性の高い市街地へ転出する人が多く見られます。一回地区を出てしまえばそのまま戻ってこない傾向があるため、回帰を促進しなくてはならないという声があります。

2 全体構想及び分野別構想における地区の位置づけ

(ゾーン) 田園集落保全活用ゾーン
 自然環境維持保全ゾーン
 (都心直結道路) (都) 東原村木沢線
 (地域間接続道路) 国道458号



凡例

市街地機能集積ゾーン	複合住宅地
田園集落保全活用ゾーン	低層住宅地
自然環境維持保全ゾーン	集落内住宅地
都市核	山形市と仙台市を結ぶ新たな道路
交通拠点	拠点連携網・幹線道路
地域の拠点	将来構想路線
観光拠点	高速道路
レクリエーション拠点	河川
沿道業務地	鉄道
工業地・流通業務地	鉄道駅
市街地内工業地	村木沢地区
産業系業務地想定地区	

3 まちづくりの基本方針

豊かな自然環境と生活利便性の高い定住環境が調和した

地域コミュニティが息づく持続可能なまちづくり

土地利用に関する方針

●集落地区の定住・移住環境の創出により、定住人口^{*}を確保し、集落の維持・活性化を図ります。

- ・開発許可制度の見直しや生活基盤施設整備への支援などによる既存集落内への定住・移住促進
- ・生活に必要な道路や公共交通の充実による生活利便性の向上
- ・中宿地区の生垣のつづく通りなどに象徴される、緑豊かで伝統的な集落景観の保全
- ・空き家バンクや住宅リフォーム支援などを活用した空き家対策と移住者向け住環境の整備推進

●森林や農地などの豊かな環境を保全するとともに、農業の振興を図ります。

- ・里山の保全を通じた良好な自然環境の維持
- ・農業の担い手の育成・確保を通じた、村木沢地区の魅力ある農地の保全
- ・水田畑地化基盤強化対策事業^{*}の推進
- ・身近にある自然を活かし、緑に近い暮らしができるという地域の魅力向上と、次世代への継承

●交流人口と関係人口の拡大により地域の活性化を図ります。

- ・西公園に隣接して設置が計画されているスマートインターチェンジを東根方面や関東方面からの玄関口として活用した交流人口の拡大
- ・西公園へのPark-PFI^{*}導入による地域の活力創出
- ・初夏に行われるあじさい祭り、出塩文殊堂や城館跡など、歴史・文化資源を活かした賑わいの創出
- ・地域住民が主体となった地域の魅力発信による関係人口の創出と関係人口を移住に繋げる段階的な取組みの検討
- ・須川沿線サイクリングロードを活用した体験型観光の推進

交通に関する方針

●道路整備による交通利便性の向上を図ります。

- ・山形市中心部へ直結する（都）東原村木沢線の整備促進
- ・市道中部3号線などの既存道路を活かした交通軸の検討
- ・スマートインターチェンジの整備を契機とした周辺道路の整備推進
- ・狭隘な集落内道路の部分改良による日常生活の利便性及び安全性の確保
- ・地区を南北に縦貫する国道458号の朝夕の渋滞緩和対策の検討

●地域のニーズを踏まえた公共交通網の再編により、生活利便性の確保を図ります。

- ・地域住民のニーズを踏まえた山形市地域交流バス南部線の運行再編
- ・小規模需要に応じた、住民が主体となって行う交通事業の導入支援

その他まちづくりに関する方針

●ハード・ソフト両面からの防災・減災対策による、大規模災害に備えた災害に強いまちづくりを進めます。

- ・災害発生時の迅速かつ適切な初期対応に向けた防災意識の高揚と啓発
- ・活断層の存在を意識した住民主体の避難訓練などの取組み促進
- ・須川の河川改修の促進
- ・浸水の恐れがあるため池の防災対策の推進

●地域別構想の実現に向けた効率的かつ効果的なまちづくりを進めるため、地域の自主的なまちづくり活動に対する支援を図ります。

- ・コミュニティ活動が盛んな地域特性を活かしたまちづくり活動の促進
- ・まちづくりに関する専門家の紹介や派遣、情報提供
- ・地域のまちづくり活動に対する市職員の積極的な派遣と活動支援

《用語解説》

・スマートインターチェンジ

高速道路の本線やサービスエリアなどから乗り降りができるように設置されるインターチェンジで、利用が可能な車両をETC搭載車に限定しているもの。

・土砂災害警戒区域

土砂災害が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域。

・土砂災害特別警戒区域

土砂災害警戒区域のうち、建築物に損壊が生じ住民等の生命又は身体に著しい危害が生じるおそれのある区域。

・空き家バンク

空き家物件に関する情報を、定住を希望する方や空き家の利用を希望する方に紹介し、空き家の利用促進を図る制度。

・グリーン・ツーリズム

農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動。

・定住人口、交流人口

定住人口とは、その地域に住んでいる人。交流人口とは、その地域には住んでいないが、通勤や通学、観光、レジャーなどの目的で訪れる人。

・関係人口

関係人口とは、そこに住んでいなくても継続的に特定の地域に関わる人。例えば、地域の特産品購入や地域への寄付（ふるさと納税など）、都心などでの地域に関するイベントへの参加など、様々な形で地域に関与し、応援、貢献する人々のこと。

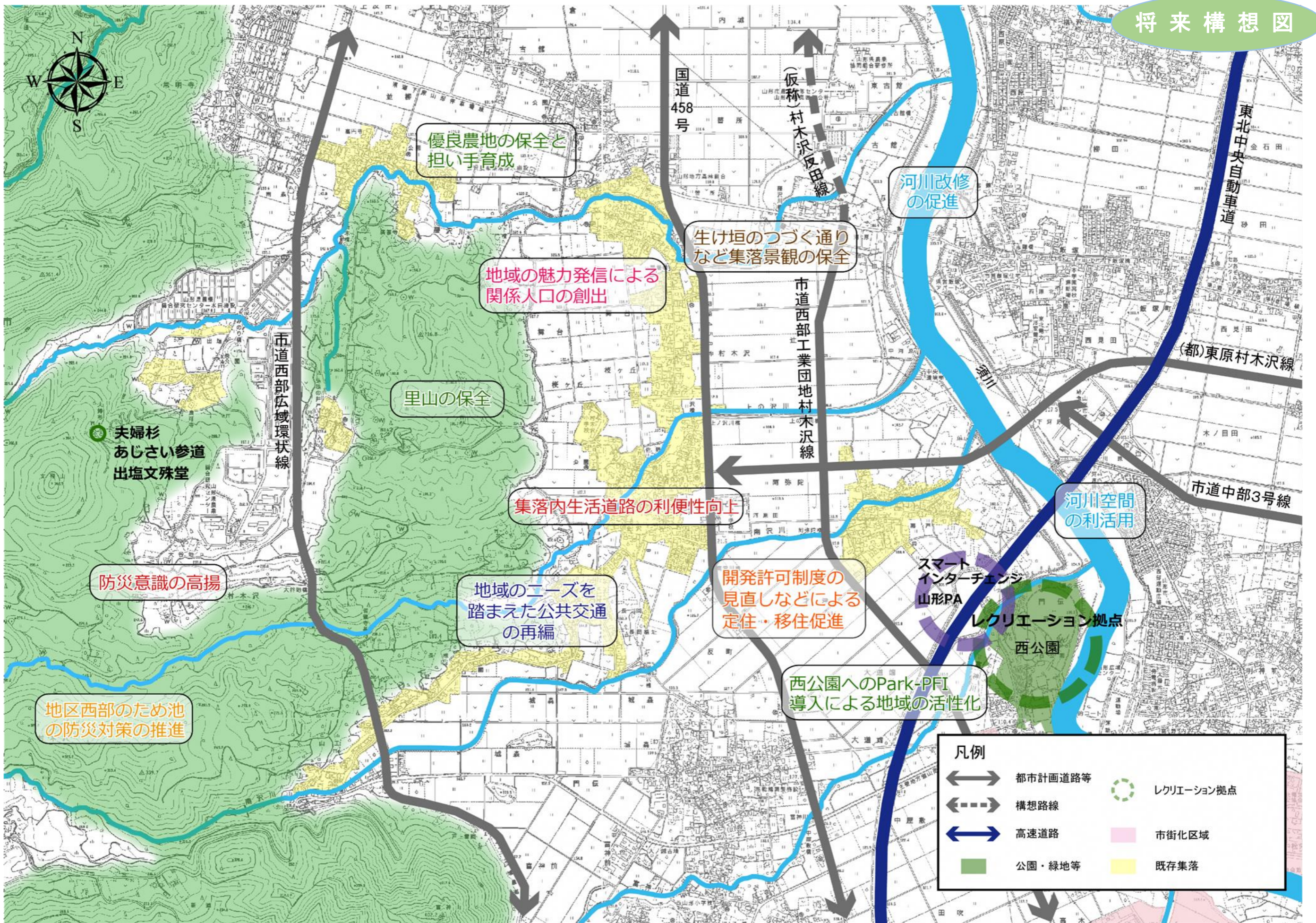
・水田畑地化基盤対策事業

水田農業における畑作物栽培に向け、高品質、高収益な畑作物栽培が可能となるよう、排水対策、地下かんがい等の基盤整備を行うもの。

・Park-PFI

飲食店、売店等の公園利用者の利便の向上に資する公募対象公園施設の設置と、当該施設から生ずる収益を活用してその周辺の園路、広場等の一般の公園利用者が利用できる特定公園施設の整備・改修等を一体的に行う者を、公募により選定する「公募設置管理制度」のこと。

将来構想図



優良農地の保全と担い手育成

地域の魅力発信による関係人口の創出

里山の保全

集落内生活道路の利便性向上

地域のニーズを踏まえた公共交通の再編

開発許可制度の見直しなどによる定住・移住促進

西公園へのPark-PFI導入による地域の活性化

河川改修の促進

河川空間の利活用

夫婦杉
あじさい参道
出塩文殊堂

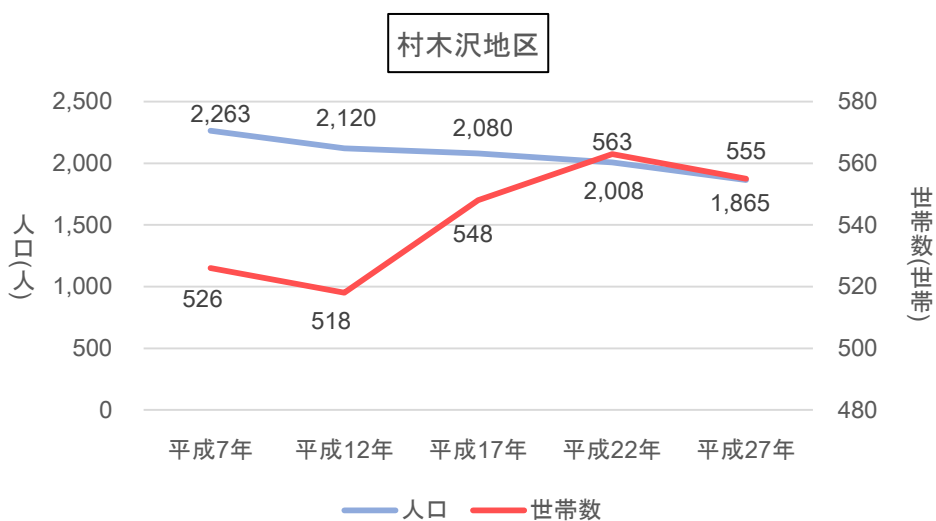
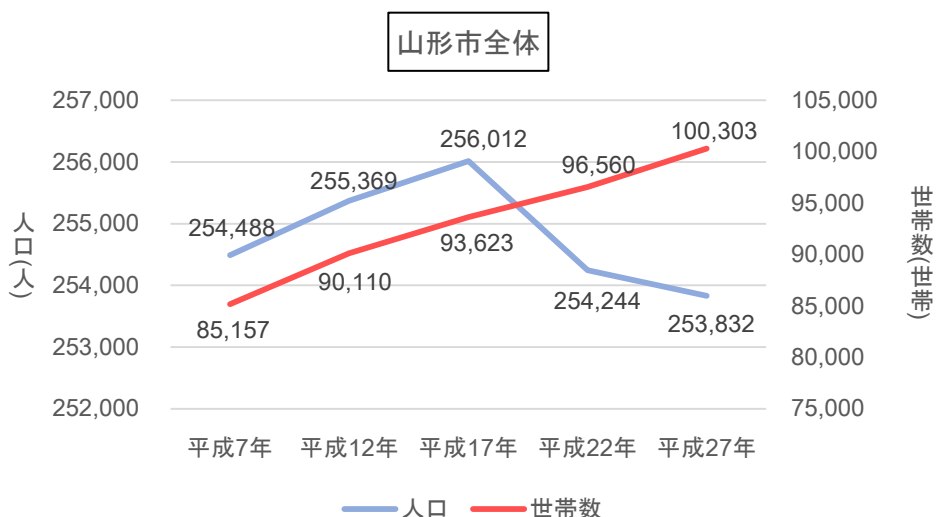
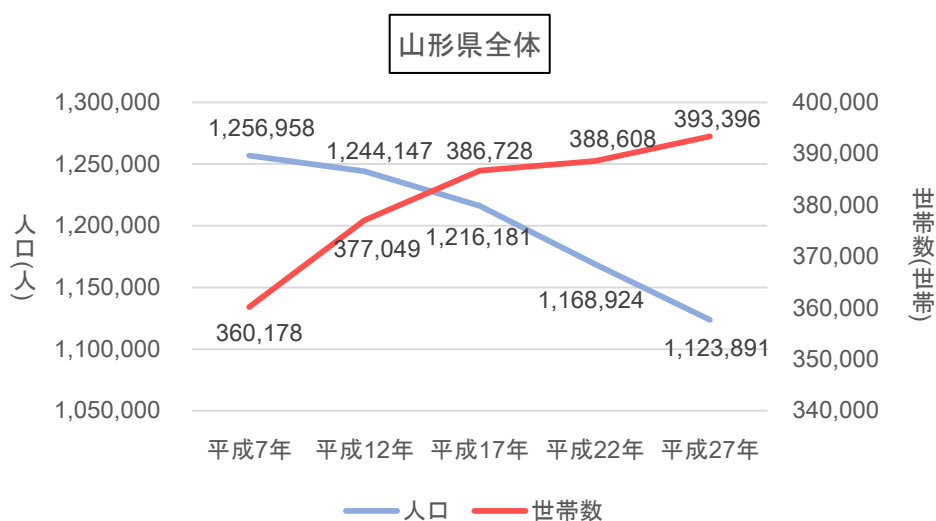
防災意識の高揚

地区西部のため池の防災対策の推進

凡例	
↔ (solid)	都市計画道路等
↔ (dashed)	構想路線
↔ (thick blue)	高速道路
■ (green)	公園・緑地等
○ (dashed green)	レクリエーション拠点
■ (pink)	市街化区域
■ (yellow)	既存集落

【地域データ】

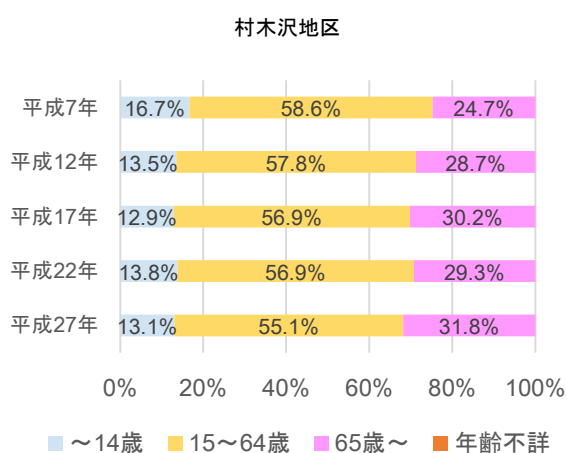
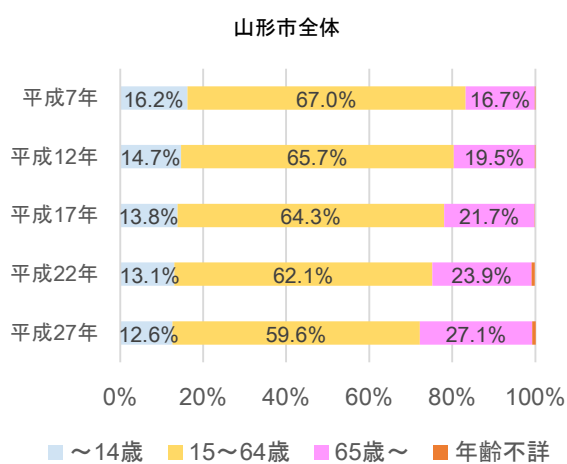
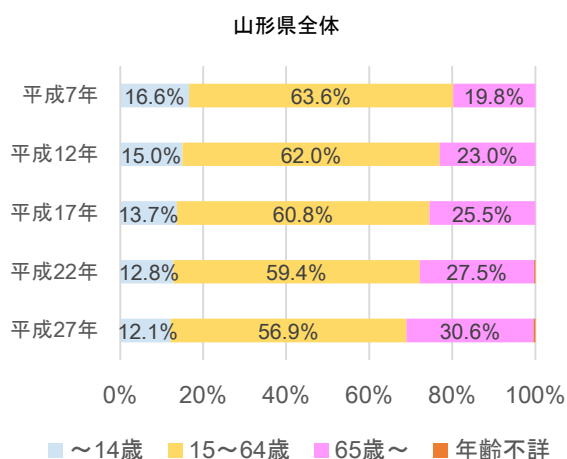
① 人口・世帯数



出典：国勢調査

【地域データ】

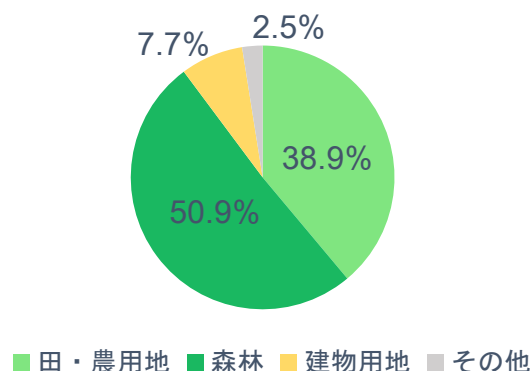
② 年齢構成比



出典：国勢調査

③ 土地利用割合 (H26)

地区の総面積 1,289ha



出典：国土数値情報（土地利用細分メッシュ）

④ 産業別就業者数

(単位)人

	平成7年	平成17年	平成27年
第1次	291	221	126
第2次	405	302	242
第3次	511	544	542
分類不能	6	17	29

出典：国勢調査

⑤ 産業別事業所数・従業員数

		平成18年	平成24年
事業所数 (件)	第1次	0	1
	第2次	25	21
	第3次	28	22
		平成18年	平成24年
従業員数 (人)	第1次	0	1
	第2次	142	123
	第3次	92	86

出典：事務所・企業統計(H18)、経済センサス(H24)

⑥ 商店数

	平成9年	平成26年
商店数(店)	13	2
店舗面積(m ²)	176	0

出典：商業統計

村木沢地区

【地域データ】

⑦ 居住住宅種類

(単位)戸

	平成7年	平成17年	平成27年
持ち家	521	546	549
公営住宅	0	0	0
民営借家	2	1	3
給与住宅	2	1	0
間借り	1	0	1
住宅以外	0	0	2

出典：国勢調査

⑧ 道路

国道	県道	その他	合計
2.2km	1.7km	37.9km	41.8km

出典：DRM (H28) のGISによる図上計測

⑨ 都市計画道路の整備状況 (H29.4.1現在)

整備済延長	事業中延長	未整備延長	計画延長
0.6km (27.9%)	0.0km (0.0%)	1.6km (72.1%)	2.2km

※整備済延長には概成済及び暫定2車線供用済路線を含む

※()内は計画延長に対する割合

出典：GISによる図上計測

⑬ 新築動向 (H24~28)

	専用住宅	その他住宅	商業施設	工場・倉庫	宿泊施設	娯楽施設	病院
戸数(戸)	28	0	1	1	0	0	0
面積(m ²)	3,856.9	0	119.9	72.0	0	0	0

出典：山形市資料

⑩ 公園 (H29.4.1現在)

計画箇所	計画面積	開設箇所	開設面積	m ² /人
0	0	0	0	0

出典：山形市資料

⑪ 農地転用 (H24~28)

田		畑	
件数	面積(m ²)	件数	面積(m ²)
2	1,119	3	794

出典：山形市資料

⑫ 開発許可申請状況 (H24~28)

市街化区域		市街化調整区域	
件数	面積(m ²)	件数	面積(m ²)
0	0	15	5,472

出典：山形市資料

【地域データ】

⑭ 公共公益施設

小学校	村木沢小学校
中学校	第八中学校
高校	
特別支援学校	
大学	
専修学校等	
認定こども園	
認可保育所	
幼稚園	
公官庁等(県・市)	山形県農業総合研究センター
公民館・コミュニティセンター	村木沢コミュニティセンター
文化施設	
高齢者福祉施設	
その他の福祉施設	
スポーツ・レクリエーション施設	
病院	
警察署	
消防署	